

# 石碑について調べる

石碑は琉球王国時代、王府の行なった土木事業を記念し、後世に伝えられるために作られたものや、冊封使によって揮毫（きごう）された書を元にして作られたものがあります。これらの石碑は建立された時代の政治や社会の情報が刻まれた貴重な資料でしたが、その多くが沖縄戦によって失われました。また、戦後の都市開発の影響で景観が大きく変化し、往時を偲ぶことが難しい状況となっています。

ここでは、沖縄県の石碑について調べる際に参考となる資料をご紹介します。

## 1. ブックリスト

### ★一般的に扱っているもの

『金石文 歴史資料調査報告書 5 沖縄県文化財調査報告書 第69集』  
（沖縄県教育庁文化課／編、沖縄県教育委員会、1985(昭和60).3) 【K200.2/O52】

主に前近代の石碑や墓碑、厨子甕（ずしがめ）、梵字（ぼんじ）碑や鍾銘（しょうめい）などを調査し、それらの拓本や翻刻文、解説が収録されている。現存しないものであっても、可能な限り拓本や翻刻文を収録しているほか、作られた年号や所在地を示した目録、所在地の地図も掲載されている。

『企画展 刻まれた歴史 沖縄の石碑と拓本』（沖縄県立博物館／編、沖縄県立博物館、1993.10）  
【K200.2/O52】

1993年に沖縄県立博物館にて開催された企画展の図録。注目する点として、県外の琉球関係金石文に関する解説とその一覧や、一部石碑の紹介が収録されていることが挙げられる。

『ふるさと沖縄の歌碑・石碑 石造物 写真集 ドライブのための本』  
（古堅 宗久／編、3版、がじまる印刷、2014.3） 【K200.8/F92】

前近代に限定せず、比較的新しい時代に作られた歌碑や石碑、石造物も含めて、その写真や解説が収録されている。

『石碑復元計画調査報告書』（国建地域計画部／編集、那覇市市民文化部歴史資料室／監修、那覇市、2004(平成16).3) 【K03/Y44】

那覇市が市内に現存、もしくはかつて建立されていた石碑の状況を調査し、今後の復元における可能性を評価・検討した資料。首里、那覇、真和志、小禄の地区別に分類し、その建立年や現況などの基本情報、拓本や文献、写真など関連資料の有無や参考資料が石碑ごとに収録されている。

### ★個別に扱っているもの

『官松嶺記設計・管理業務報告書』  
（那覇市市民文化部歴史資料室／[編]、那覇市市民文化部歴史資料室、2007.3） 【K200.2/Ka59】

現在のノホテル沖縄那覇の北側には「官松嶺」という丘があった。その頂上に置かれていた「官松嶺記」碑を復元した際の報告書。

『国王頌徳碑(かたのはなの碑)設計・施工監理業務報告書』

(那覇市市民文化部歴史資料室／[編]、那覇市市民文化部歴史資料室、2006(平成 18).3)

【K200.2/Ko48】

鳥堀一丁目バス停の付近には、かつて「かたのはなの碑」と称される石碑があり、それによってこの一帯は「碑文ぬ前(ヒブンヌメー)」と呼ばれていた。その「かたのはなの碑」を復元した際の報告書である。

『重修天女橋碑記及び重修金城橋碑文設計・施行監理業務報告』

(那覇市市民文化部歴史資料室／[編]、那覇市市民文化部歴史資料室、2005.3)

【K200.2/N27】

円鑑池の中央にある中島との間に架けられた天女橋、及び首里・識名台地の間を流れる安里川に架けられた金城橋を回収した際に作られた石碑である。この2つの石碑を復元した際の報告書が当資料である。

『国王頌徳碑(石門之東之碑文)眞珠湊碑文(石門の西のひのみん)復元事業報告書』

(首里城復元期成会／[編]、首里城復元期成会、2006(平成 18).2)

【K200.2/Sh99】

首里城から那覇港までを結ぶ道路として作られた眞珠道(まだまみち)の起点にあたる石門(イシジョー)の両側に建てられていたのがこの2つの石碑である。

復元碑は当初首里城公園内にある首里杜(すいむい)館の庭に設置されていたが、眞珠道起点の整備復元に合わせて2019(平成 31・令和元)年に本来の場所である守礼門の東南に移設されている。

『重修石火矢橋碑・豊見城グスク 南部広域圏斎場建設に伴う記録保存調査及び確認調査』

(豊見城市教育委員会／編、豊見城市教育委員会、2013.3)

【K200.2/To52】

豊見城市における斎場建設(現：南部広域圏南斎場)に伴う保存調査及び確認調査の報告書である。石碑は沖縄戦で破壊されごく一部しか残っておらず、現時点では復元もされていないが、将来的な移設・復元が検討されているようである。

『山崎博士の演説と文章』(山崎博士古稀祝賀会／著、山崎博士古稀祝賀会、1941.6)

【K200.2/To52】

戦前に熊本医科大学の学長を務めた山崎正董(まさただ)が、退職後の1932(昭和7)年と1933(昭和8)年に沖縄や奄美を旅行した際の紀行文が収録されており、この中に、一部石碑の写真が掲載されている。

この旅行で山崎博士は本島各地を回っており、石碑の様子だけでなく戦前の情景を調べる上でも貴重な資料となっている。

『懐かしき沖縄 山崎正董らが歩いた昭和初期の原風景、写真集』(野々村 孝男／編著、琉球新報社、2000.11)

【K200.2/To52】

山崎博士の撮影した写真はオリジナルの所在が長らく不明であったが、著者の野々村孝男が熊本県立図書館に寄贈されていたことを突き止め、関係機関や人物の協力を得て出版された資料である。『山崎博士の演説と文章』と同様に戦前の風景がわかる貴重な資料で、同書に掲載されているものよりも大きなサイズで写真を見ることができる。

なお、撮影された写真は山崎博士自身が写り込んでいるものが複数あり、それによって建造物の寸法を推測することができるという点でも貴重な資料となっている。

『沖縄大百科事典 上 中 下 別巻』

(沖縄大百科事典刊行事務局編、沖縄タイムス社、1983(昭和 58).5)

【K03/O52/1~4】

『琉球史辞典』(中山 盛茂／編著、第五版、文教図書、1993.6)

【K80/Ko49】

これらの事典には、個別の項目で石碑についての詳細が収録されている。

その他、市町村史や字誌などにその地域に建てられている石碑について記載されている場合がある。

## 2. インターネット情報

「那覇市内史跡・旧跡案内」那覇市歴史博物館 提供

<http://www.rekishi-archive.city.naha.okinawa.jp/archives/site>

「復元石碑」の分類で、戦後に復元された石碑 4 点の解説を見ることができる。

「沖縄県立図書館貴重資料デジタル書庫」沖縄県立図書館 提供

<https://www.library.pref.okinawa.jp/archive/index.html>

石碑の拓本と、一部のものについてはその石碑に関する解説を見ることができる。